



ワーカーズコープ連合会は理事会(9/7)を開催し、創立総会で確認した総会方針に則って具体的な活動を開始。今年度3回予定している学習会の第一弾として、「協同組合のガバナンス、役員の役割」と題し、日本生協連の法務部長スタッフの宮部好広さんより法規範と自治規範、ガバナンスの意義と仕組み、内部統制と各機関の役割などを学ぶ。新しく設立された団体も新たに労協法人に法人移行した団体にとっても、非常に学びの多い内容で、とりわけガバナンスとマネジメントを労働者が組合員である労働者協同組合はどのように成り立たせるのが重要な課題と考える。今後理事会で継続して検討していきたい。

ほかにも新理事向け学習会として「協同労働という働き方と労働者協同組合法」「協同労働の協同組合の原則と歴史」を専務理事の田嶋康利さんを講師に行った。協同労働や組織理念をどのように新しく加わる仲間伝えていくのか、協同労働の協同組合の原則を毎月話し合いの前に読み合っている現場組合員の関係性が寛容で人が辞めにくいのではないかなど、講義をもとに実践にひきつけた意見交換も大変興味深い内容となった。

9月よりセンター事業団から出向で新たに松垣芳伸さんを事務局次長として迎え、加盟組織同士の学びの場(10/16-17)や、協同労働のリーダー研修(10/23-24)、一般の方も含めた協同労働実践交流全国集会(11/18)などを、理事たちによる各委員会

で準備しながら進めていく。

連合会として加盟組織を訪問し、協同労働の運営や事業展開を推進するサポートをしたり、加盟組織同士が連携することでの推進を図ったりしている。新しく立ち上がったコモンウェーブでは、9月末の事業年度末に向けてどのように組合員自らが年間を振り返り、それをもとに自分たち自身で事業計画を作成していくのかを毎月の会議で学びながら実際に進めている。上田では、労働政策研究・研修機構(JILPT)のヒアリング調査や厚労省の視察を受けながら、改めて地域で元気高齢者が主体的に地域の困りごとを協同で解決していくことの想いを組合員一人ひとりが発し、さまざまな方面からのアドバイスをもらいながらその価値と可能性を高めている。ケアワーカーズコープ北海道では、3つの労協法人に分かれたことも含め、どのように人材を育成するしくみを作っていくかを、ワーカーズコープながの・ちばの実践を共有することで検討。903シティファーム推進協議会はセンター事業団東葛事業所の清掃現場を視察し、どのように話しやすい、働きやすい、辞めた後も戻ってきやすい職場づくりを進めているかを学ぶ。

相談も増えており、富良野市で2年以上前から学習を繰り返してきたグループがフリースクールや子どもの居場所を目指して労働者協同組合フラヌイスコーレを設立

(9/27)。また石巻市で立ち上がったおたすけおんがく隊とオンラインで懇談するなかで、自治会との信頼関係を築くなかで取り組んできたさまざまなアクティビティの事業化に向けての検討や、音楽イベントをセンター事業団石巻事業所と連携して行うことを進める。コープ自然派でも2年前から学習会を行うなかで、連合会の機関誌を発行する労働者協同組合わーい、商店街でコミュニティの拠点づくりなど行う労働者協同組合Treeが理事を中心に生まれ、さらに組合員による地域活動の事業化を検討している。9月末には長野県飯綱高原で、若いカナダ人女性が労働者協同組合による音楽とアートのフェスと呼び掛け、Koshikake Events労働者協同組合が設立され、ミュージシャンや出展者が主体となり企画・準備・運営し、労働者協同組合初のフェスが開催され(9/29-10/1)、2,000人が集まった。

厚生労働省の労働者協同組合周知フォーラム(西日本)(9/24)も関西大学で開催。雇

用環境・均等局長の挨拶、大阪府の市町村の手上げ方式による学習会の取り組み、京丹後市の協同労働推進事業を通して公務員による労働者協同組合の設立をはじめいくつもの設立の可能性が高まっていることが報告。牧野篤東京大学教授からは「『ちいさなしあわせを重ねふるさと』をつくる：労働者協同組合という担い手」と題して講演。パネルディスカッションでは、Oretachino Camp労働者協同組合連合会、東白川村労働者協同組合、労働者協同組合アソビバより、自分たちのキャンプする場を作る取り組みから5,000人以上が集まる場になった取り組み、移住者と地元住民が一緒になって地域の困りごとを解決する仕事おこしに取り組む実践、地域おこし協力隊が3人集まり気軽に仲間と楽しく働くことをめざして立ち上げた話などを丁寧に伝えてもらう。

労働者協同組合法施行1周年を、さまざまな可能性と課題を実感しながら迎えている。